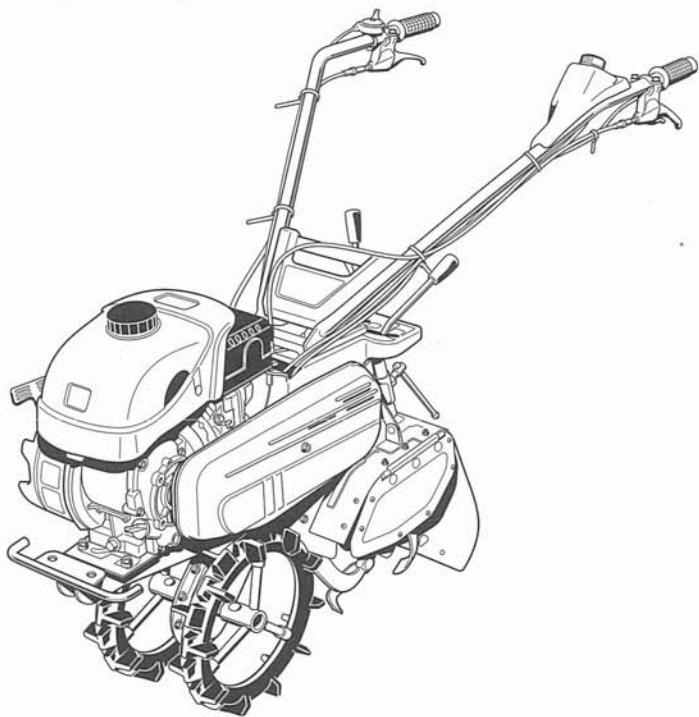


ヘルパー管理機

取扱説明書

K350 (F)
(R)



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してく
ださい。



関東農機株式会社

HELPER®

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



エンジン停止



チョークレバー



ガソリン燃料

専門用語の説明



燃料コック [開]



燃料コック [閉]

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。

使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

- F 仕様……………ハンドルがロータリ側
- R 仕様……………ハンドルがエンジン側

はじめに

このたびは関東農機製品をお買上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

目 次

▲安全に作業するために

運転する前に.....	▲1
始動するとき.....	▲2
移動、作業するとき.....	▲3
作業が終わったとき.....	▲6
点検、整備をするとき.....	▲6
表示ラベルと貼付け位置.....	▲8
表示ラベルの手入れ.....	▲8

サービスと保証について

各部の名称と装置の取扱い

機体方向説明と装置の名称.....	2
各部の名称とはたらき.....	3
主クラッチレバー	3
ハンドル上下レバー	3
エンジンスイッチ	3
リコイルスター	3
主変速レバー、ロータリ変速レバー	4
燃料コックレバー	5
チョークレバー	5
スロットルレバー	5
燃料キャップ	5
マフラー	6

作業前の点検

調子よく作業するために.....	7
安全に作業するために.....	9

運転のしかた

新車時の扱いかた.....	10
ならし運転（最初の 10 時間まで）	10
エンジンの始動と停止のしかた.....	10
始動のしかた	10
停止のしかた	11
発進のしかた.....	12
耕深の調節	13
ハンドル高さの調節	13
ハンドルの左右回動	14

作業のしかた

上手な作業のしかた.....	15
耕うん作業手順	15
旋回手順	15

管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について	16
------------------	----

日常の手入れ	16
エンジンオイルの交換	16
ミッションオイルの交換	16
エアクーラーナエレメントの清掃とオイルの交換	17
燃料フィルタの清掃	18
点火プラグの調節・清掃・交換	18
主クラッチケーブルの調節	19
ハンドル上下レバーの調整	20
スロットルレバーの調整	20
耕うん爪の取付けかた	21
使用後の手入れ	23
エンジン始動不良を防ぐために	23
長期格納時の手入れ	23
燃料の抜取り	23
洗車時の注意	24

管理機を運搬するとき

自動車（トラック）への積込み、運搬 ..	25
付表	
主要諸元	26
標準付属部品	27
主な消耗部品一覧	27

トラブルと処置

⚠ 安全に作業するため

必ず読んでください

本機をご使用になる前に、必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で **⚠ 危険**・**⚠ 警告**・**⚠ 注意**・**重要**・**補足** としてそのつど取上げています。

運転する前に

■ 運転前に

- 機械を動かす前に、取扱説明書と機械に貼つてある **⚠** 表示ラベルをよく読み、理解した上で運転してください。
- 機械の運転操作、特に主クラッチ【切】はすばやくできるよう、よく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。

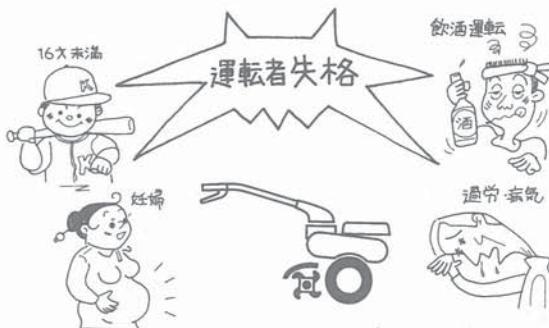


1AGAAAPAP062B

■ 使用する人は

次の項目に該当する場合は、機械を使用しないでください。

- 本書及びラベルの内容が理解できない人
- 視力不足などのため表示内容が読めない人
- 飲酒時や体調が悪いとき、また妊娠中の人は
- 16才未満の人
- ハンドルを操縦する体力に自信のない方

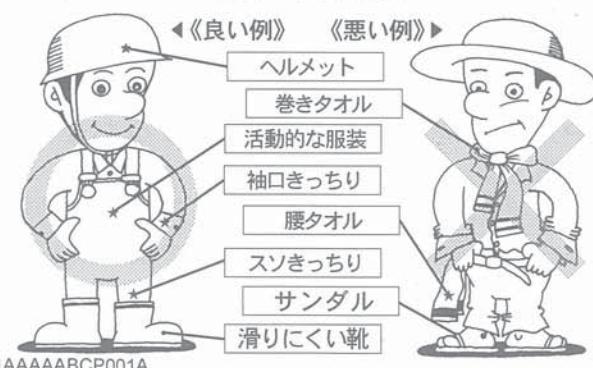


1AFACAAAP024A

■ 使用する人の服装は

- 回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる、だぶついた服、腰タオルなどはやめてください。
- ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要により着用してください。

作業時の服装



1AAAAABCP001A

■ 周囲への注意

- 子供、ペットを近づけないでください。
- 見物人を近くに寄せないでください。
- 共同作業者がいるときは、互いに注意してください。

■ 他人に貸すときは

- 事前に運転のしかたを教え、【取扱説明書】を必ず読んでもらってください。
- 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



■ 給油・注油するとき [火気厳禁]

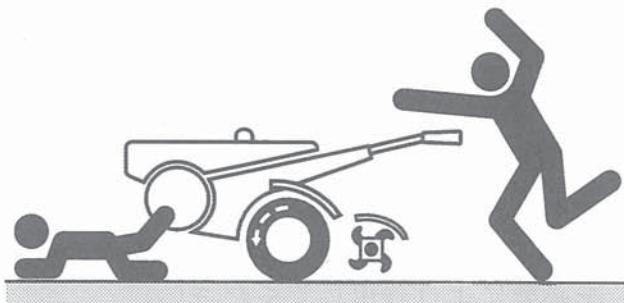
- 燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
- 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
- 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。
- 燃料補給後、給油キャップはもれなくしっかり締めてください。
- こぼれた燃料はふき取ってください。



始動するとき

■ エンジンを回すとき

- 必ず本機、（ロータリ）の主クラッチレバーを【切】り、主変速レバーは【中立】にして、付近に人（特に子供）を近づけないでください。
- もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。
- リコイルスタータを引張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。



■ 排気ガスに注意

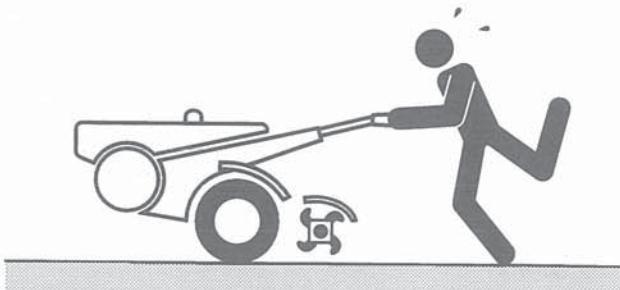
排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがあるので、換気の悪い所（ハウス、車庫等）では使用しないでください。



移動、作業するとき

■ 発進するとき

- 速い速度での走行は十分注意してください。
- 車速の最低速で主クラッチレバーの【入】はゆっくり、【切】はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。
- 小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。
- 後進の発進時は、ハンドルが持ち上がりやすいので、エンジンの回転数を下げ、しっかりとハンドルを押さえながらゆっくり主クラッチを入れてください。



1AFACAAAP028A

■ 移動するとき

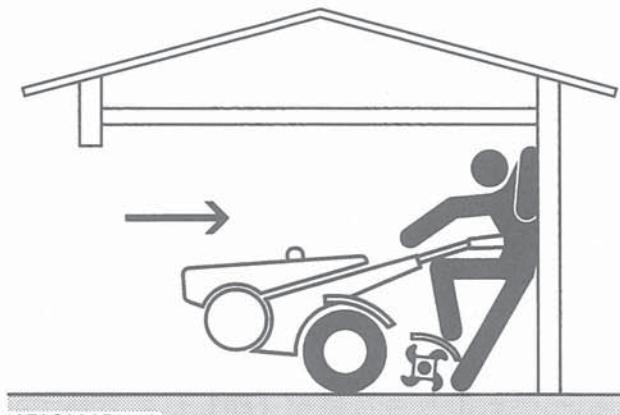
- 移動する際は、必ずロータリの回転を止めてください。



1AFACAAAP034A

■ ハウス、車庫等での移動

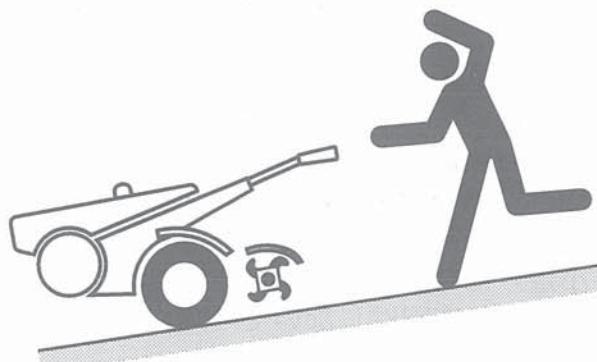
- 後方の壁、支柱、天井など障害物にはさまれるおそれがあるのでエンジン回転を下げて後進してください。
- 屋根の低いハウス内や車の荷台では、エンジンを停止して手で引き出してください。



1AFACAAAP030A

■ 坂道を移動するとき

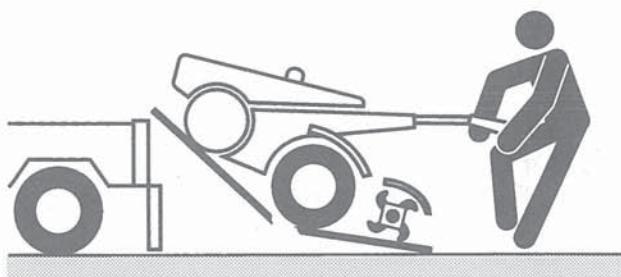
- 坂道、ほ場の出入り、畦の乗越え等の途中で主クラッチを【切】ったり、変速を【中立】にすると、機体が思わぬ方向に進み危険です。
- 変速操作は、機械が平坦な場所以外では行なわないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。



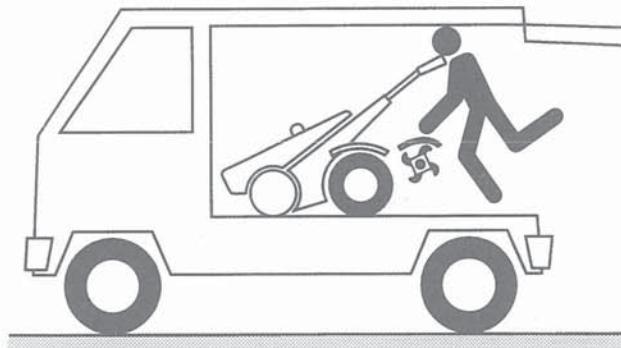
1AFACAAAP031A

■ 運搬・積降ろしするとき

- 積込み・積降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
- アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ【1】に対しアユミ板の長さ【4以上】のものを使用し、確実に固定してください。
- 足元に注意し、車速は最低速で、上りは【前進】下りは【後進】で行ない、途中で主クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
- 車などで運搬するときは、必ず荷台に天井がない車を使用してください。
- 燃料コックレバーを必ず【閉】にし、給油キャップはもれなくしっかりと締めてください。燃料もれが発生し、火災や爆発のおそれがあります。
- 機体の固定は前部バンパ、尾輪の2箇所を使ってロープ掛けを行ない、確実に床に固定してください。(ハンドルを使っての固定はしないでください。)



1AFACAAAP032A



1AFACAAAP033A

■ 耕うん作業するとき

- いつでも主クラッチが【切】れる姿勢で運転してください。爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがあります。
- 作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石・材木・針金・空カン・空ビンなどを取除いてください。
- 作業前、作業後には機械の整備・点検を行なってください。特にエンジン本体、マフラー周辺、配線部にワラくずなどがたまっていると、火災の原因になります。

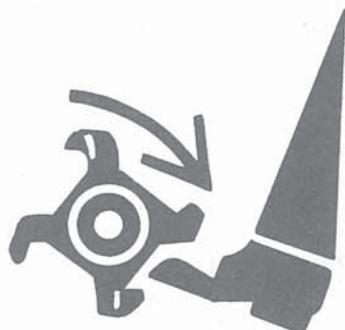


1AFACAAAP029A

- 周辺の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取除くか移動させてください。機械のマフラーが接触すると、発火するおそれがあります。
- ほ場の中や周囲にある支柱、樹木や段差などは、作業前に位置を確認し、後進時にはさまれたり、転倒・転落しないよう安全な距離を保って、近づかないよう作業してください。
- ハウスや小屋の中、果樹園など障害物がある場所では、周囲をよく確認しながら作業してください。特に後進、旋回するときは、エンジン回転を下げ、ハンドルをしっかりと押えて行なってください。
- 長いワフ・草など作業に支障のあるものは、作業前に取除いてください。機体が思わぬ方向に飛出し、転倒などのおそれがあります。

■ 回転している爪に注意

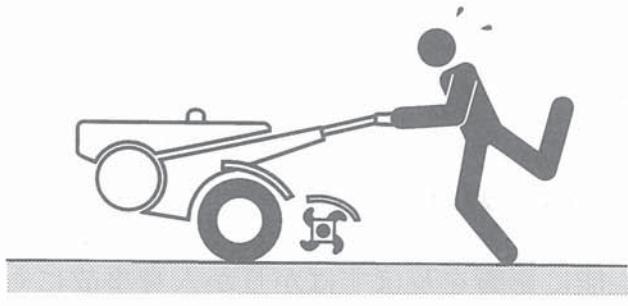
- ハンドル部を持上げ旋回するとき、足元及び周囲に十分注意しないと回転する爪に巻込まれるおそれがあります。



1AFACAAAP034A

■ ほ場が硬いとき

- 硬いほ場では車速を遅めにして、耕深も浅めで作業を行なってください。機体が飛出すおそれがあります。



1AFACAAAP028A

■ 機械から離れるとき

- エンジンは必ず停止させ、平坦で安定した場所に停車してください。移動・落下するおそれがあります。
(やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。)
- 周囲に草・ワラなど燃えやすいものがある場所に止めないでください。火災のおそれがあります。

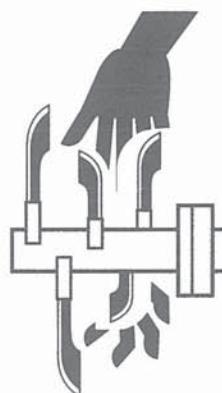


1AFACAAAP031A

作業が終わったとき

■ 掃除をするとき

- 車軸・爪軸（ロータリ）等に巻付いた草・ワラ・泥土等を取除くときは、巻込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。



1AFACAAAP036A

点検、整備をするとき

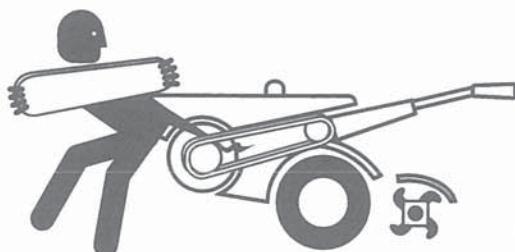
- 点検、整備、アタッチメントの脱着などは、機械が転倒しない平坦な所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行なってください。



1AKABAIAPI071A

■ カバー類は必ずつける

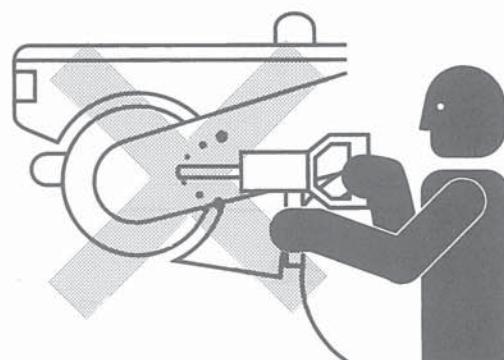
- ベルトカバーなどの防護カバーを取り外すときは、巻込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。
- 取外したカバー類は元通り組付けてください。



1AFACAAAP037A

■ 機械の改造禁止

- 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。



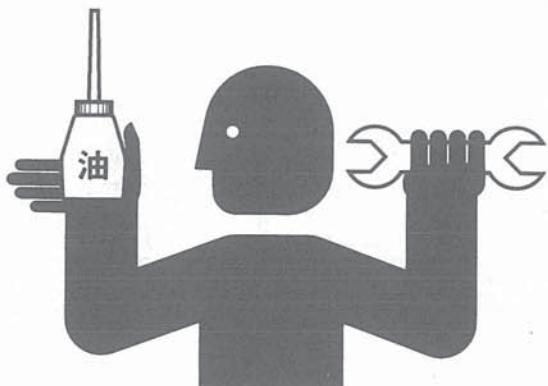
1AFACAAAP040A

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください

■ 1年毎の定期点検を

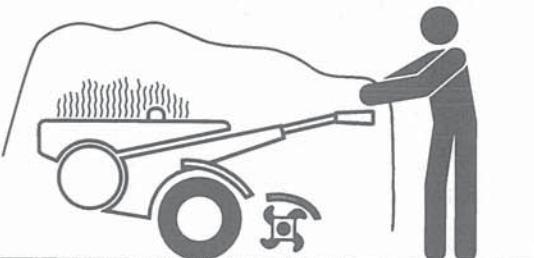
- 機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため、1年毎に定期点検・整備を受け、特に燃料パイプは2年毎に交換して安全に作業できるようにしてください。



1AFACAAAP038A

■ 格納するとき

- 機体に保管用カバーをかけるときは、火災予防のため高温部が冷めてから行なってください。
- 火災防止のため、草・ワラ等可燃物のあるところでの保管はしないでください。



1AFACAAAP042A

■ 廃棄物の処理について

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。



1BJABAAAP0180

■ 夜間作業の禁止について

- 本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間 作業はしないでください。思わぬ事故になるおそれがあります。

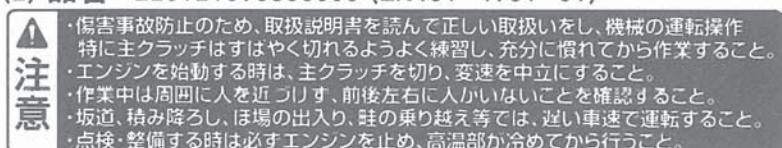
表示ラベルと貼付け位置

(1) 品番 286350000805000 (KA761-4728-01)



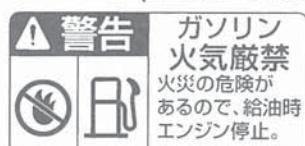
1AFADAAAP0860

(2) 品番 220121070803000 (LK451-4731-01)



1AFADAAAP0870

(3) 品番 220121070806000
(LK451-4732-0)



1AFADAAAP0850

(4) 品番 220121020832000
(61091-4211-0)

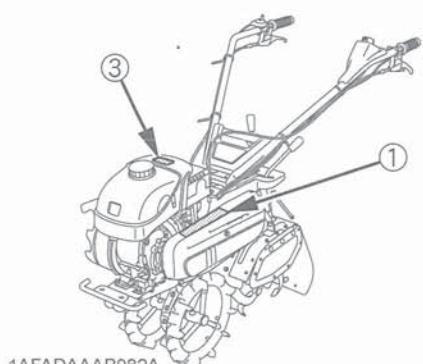


1AFADAAAP0880

(5) 品番 220121020831000
(61091-4212-0)

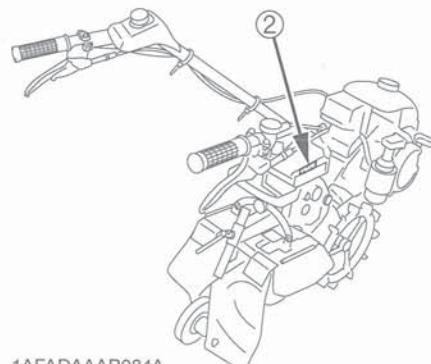


1AFADAAAP0890

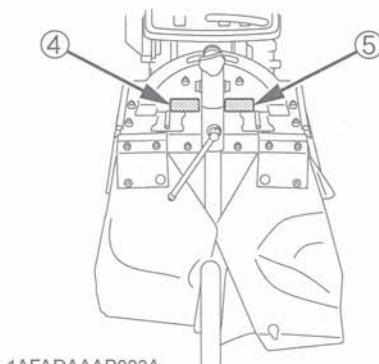


1AFADAAAP082A

1AFADAAAP1350



1AFADAAAP084A



1AFADAAAP083A

表示ラベルの手入れ

- ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高压洗浄機で洗車すると、高压水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高压水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付しておりますので、ご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ【ご相談窓口】を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1) 型式名・販売型式名と車台番号

(2) エンジン番号

をあわせてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



警 告

- * 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故にもつながるおそれがあります。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

◆ 認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は、下記の型式名及び番号をご使用ください。

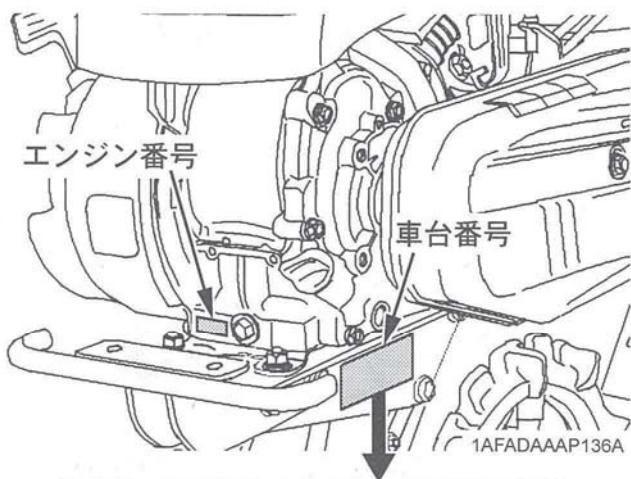
販売型式名	農機型式名	安全鑑定番号
K350 F	K350 F	33094/10
K350 R	K350 R	33095/10

■ 補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。



農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型 式 名		K350 F
区 分		
搭載 機関	型 式 名	GB101LN
連続定格出力		1.6kw (2.2PS) / 1800rpm
製 造 番 号		

製造元：関東農機株式会社



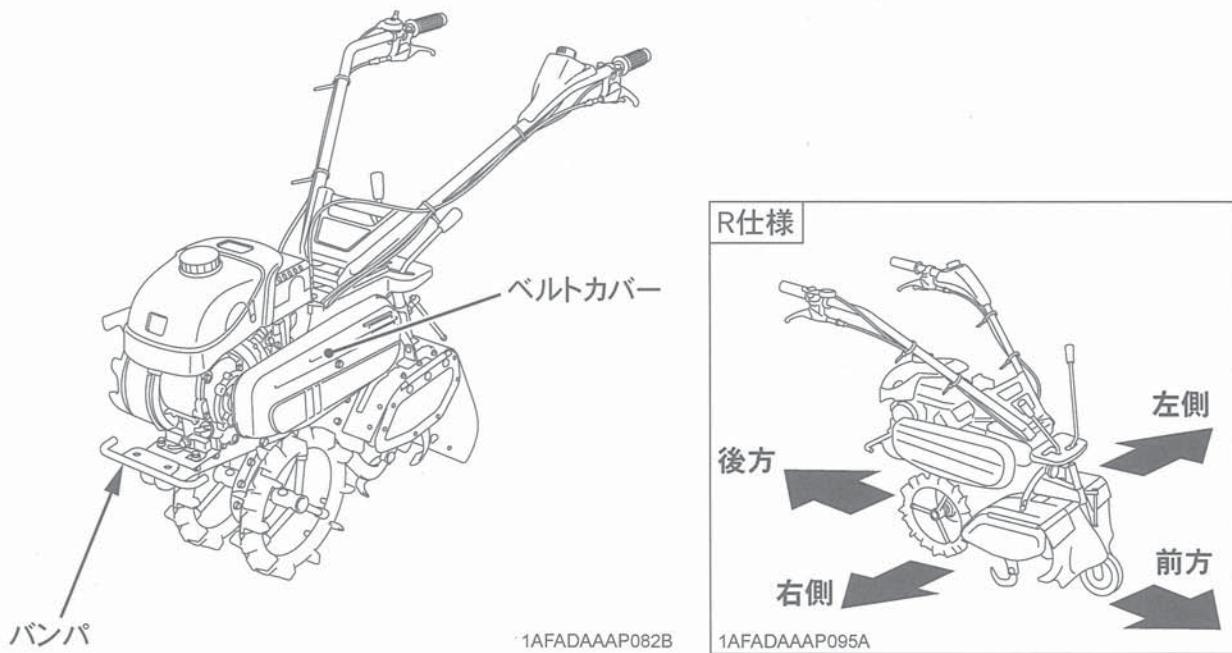
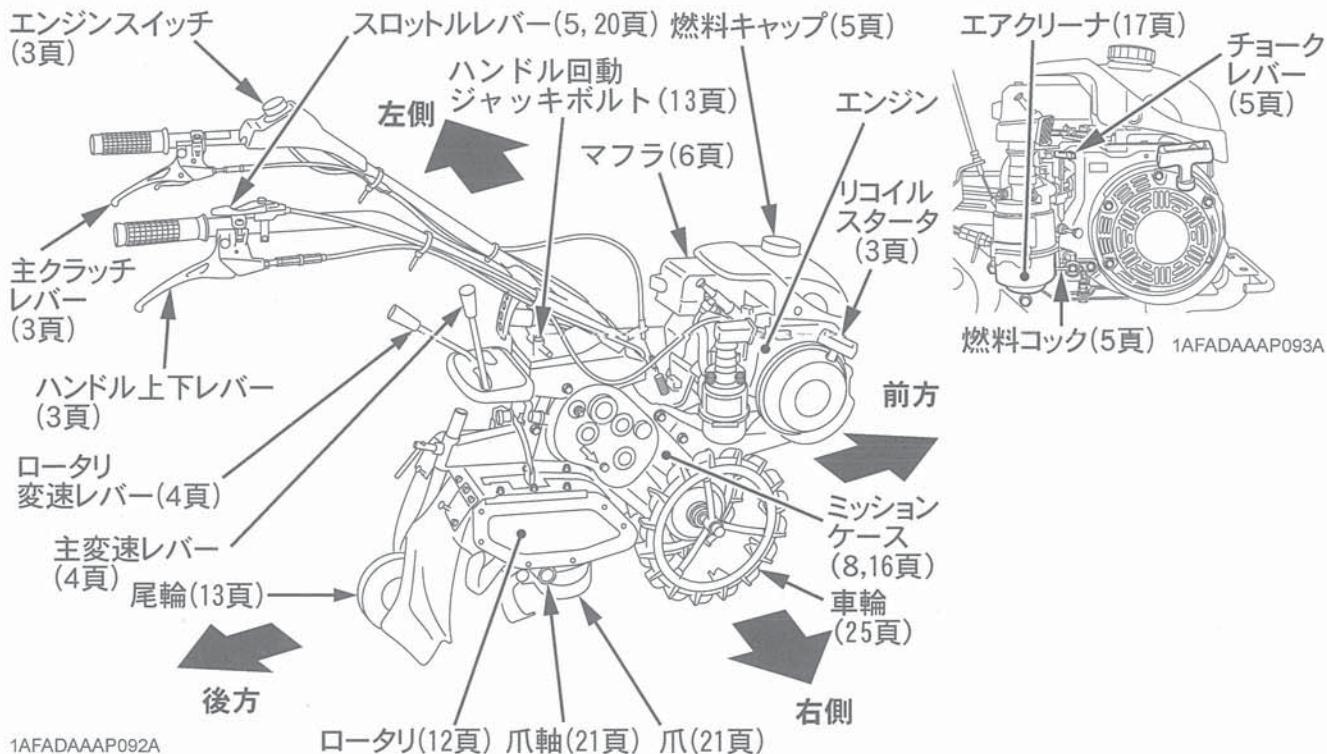
注 意

- * トレーラ走行はできません。
小型特殊自動車の認定を受けておりません。
一般公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
一般公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んで運搬してください。

各部の名称と装置の取扱い

機体方向説明と装置の名称

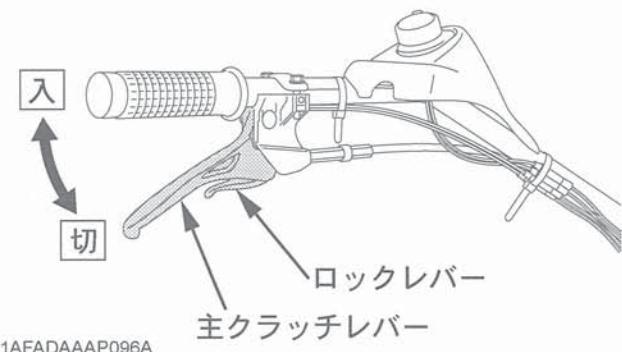
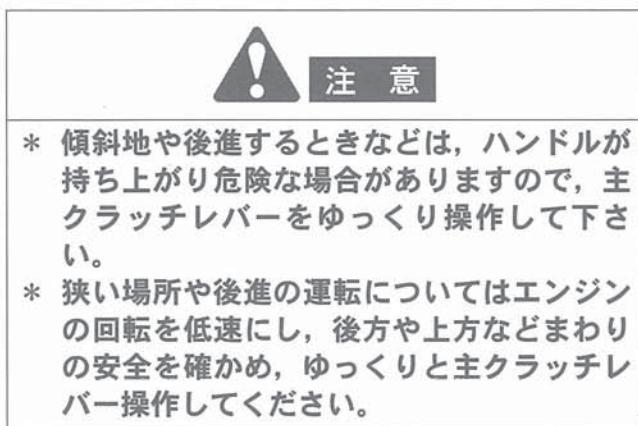
本書では、【F 仕様】を基準として解説しております。
その際の機体説明方向は下図のように規定いたします。



各部の名称と装置の取扱い

各部の名称とはたらき

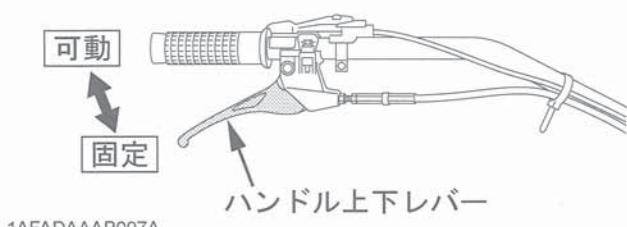
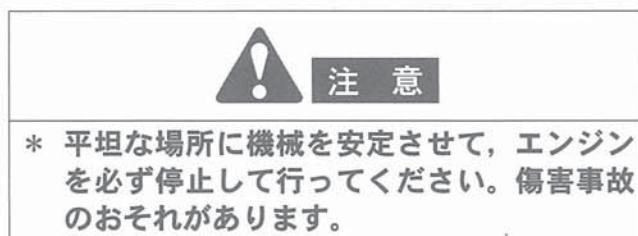
■主クラッチレバー



エンジンからの動力を断続します。

1. レバーを握るとクラッチが【入】ります。いったんクラッチが【入】るとロックレバーが作用して、指を離しても戻りません。
2. ロックレバーを握り指を離すとレバーが戻り、クラッチが【切】れます。

■ハンドル上下レバー

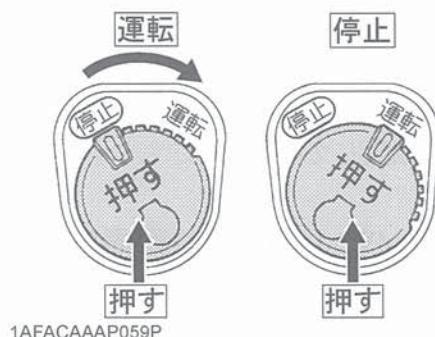


1. ハンドル上下レバーを握るとハンドルの高さが4段階に調節できます。
2. ハンドル上下レバーを離すと固定されます。このときピンがプレート穴に確実に入っているか確認してください。

■エンジンスイッチ

エンジンの始動・停止に用います。

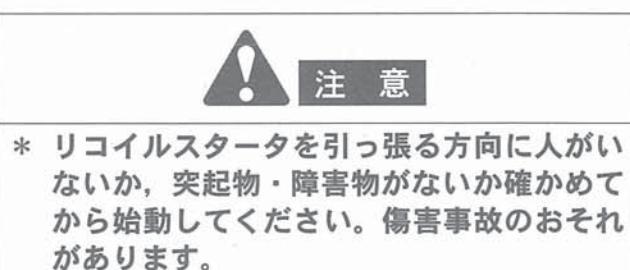
1. スイッチを押しながら【運転】位置に回すと始動が可能です。
2. スイッチを押すと左に回って【停止】位置に戻り、エンジンが停止します。



補足

- * 非常時にはエンジンスイッチを押してください。エンジンが停止します。

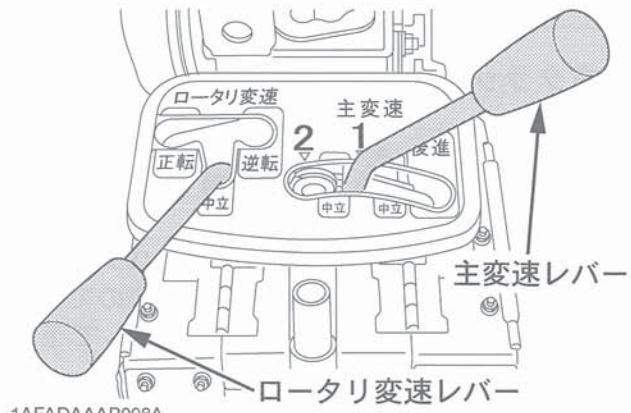
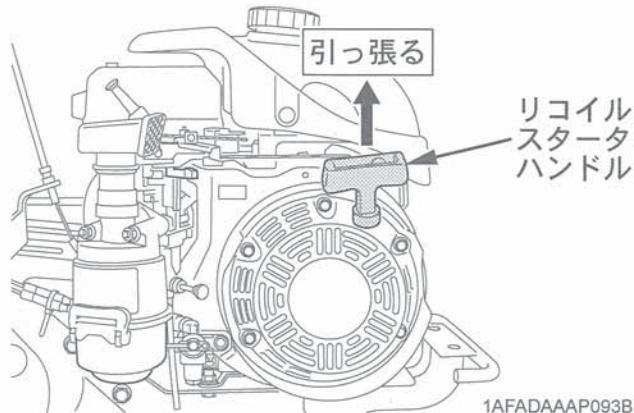
■リコイルスター



エンジンを始動します。

主クラッチレバーを【切】にし、リコイルを引っ張ると始動します。

各部の名称と装置の取扱い



補足

* 主クラッチレバーは必ず【切】の状態にして主変速レバー、ロータリ変速レバーを【中立】にして始動してください。

■主変速レバー、ロータリ変速レバー

※下記の説明は【ハンドル側】から見た状態を基準としています。



注 意

- * エンジンを始動する前に、必ずレバーを【中立】にしてください。
- * 変速操作は主クラッチを【切】ってから行ってください。
- * 走行中は変速しないでください。

[F仕様]



警 告

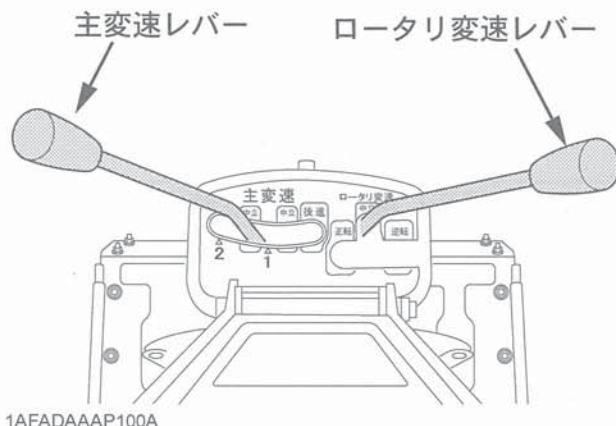
- * 後進時の巻き込まれ事故防止のため、ケンセイ装置を外さないでください。

※変速は案内板の表示位置に合わせシフトします。

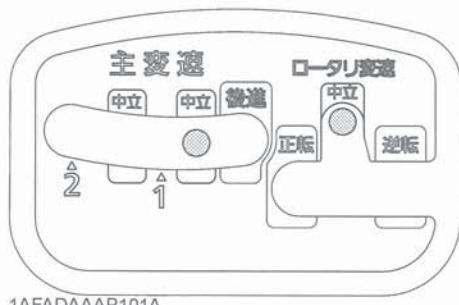
1. ロータリ変速は正転1段、逆転1段の計2段です。
2. 主変速レバーは前進2段、後進1段の計3段です。
3. ロータリ変速レバーが「正転」「逆転」位置ではケンセイ装置がはたらき、主変速レバーは「後進」に入りません。

[F仕様]

[R仕様]



各部の名称と装置の取扱い



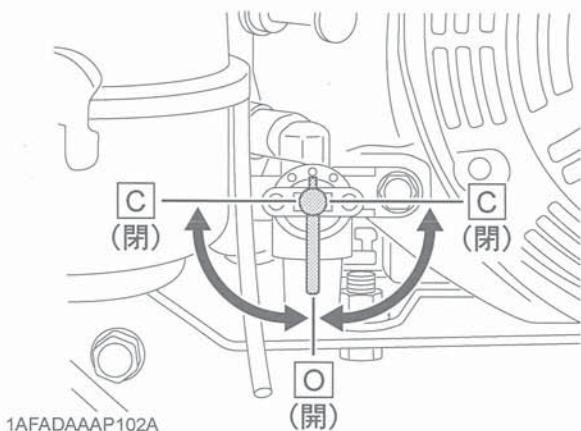
1. ロータリ変速は正転1段、逆転1段の計2段です。
2. 主変速レバーは前進2段、後進1段の計3段です。

[R仕様]

■燃料コックレバー

燃料タンクからエンジンへ燃料の【供給】・【停止】をします。エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めます。

1. [C] (閉) 燃料停止
2. [O] (開) 燃料供給



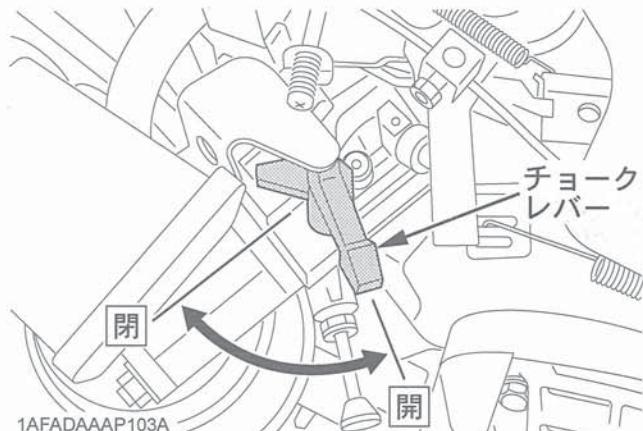
重 要

* コックを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。

■チョークレバー

エンジンがかかりにくい時に使用します。

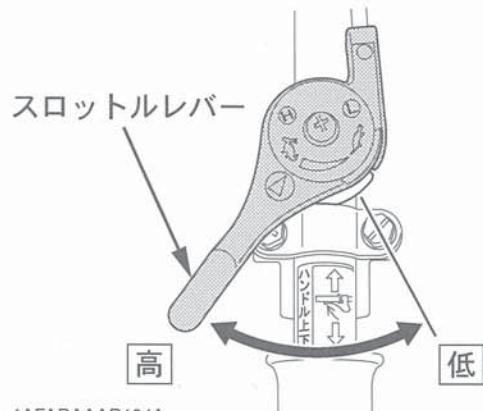
1. 始動時、【閉】位置にレバーを切り替えます。
2. 始動後、【開】位置にレバーを切り替えます。



■スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。

1. 【高】の方向に回すと回転が上がります。
2. 【低】の方向に回すと回転が下がります。



■燃料キャップ



警 告

- * 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行なってください。
- * 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- * 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- * 給油後、燃料キャップはガソリンがもれまいようしっかりと締めてください。
- * 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

各部の名称と装置の取扱い

自動車用レギュラーガソリンを使用します。

燃料の種類	規定容量
自動車用レギュラーガソリン	1.2L

重 要

- * 燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように、注意してください。

■マフラー



注 意

- * マフラーに手でふれないでください。
ヤケドをするおそれがあります。

作業前の点検



注 意

- * 平坦な場所に機械を安定させて点検してください。
- * 点検中はエンジンを停止してください。

調子よく作業するために

(詳細は 16 ページの 【管理機の簡単な手入れと処置】 の項を参照)



警 告

- * 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行なってください。
- * 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- * 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。
- * 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようしっかりと締めてください。
- * 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

重 要

- * 各給油箇所には工場から出荷のときオイルが入れてありません。下表に従い給油してください。

給油箇所	種類	容量
エンジン (GB101)	エンジンオイル	0.4L
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	1.2L
ミッションケース	ミッションオイル #80	1.3L
耕うん軸、車軸、レバー支点	グリス	別途指示
クラッチワイヤー、インデックスワイヤー等	エンジンオイル	別途指示

※エンジンオイル・・・10W-30

※ミッションオイル・・・#80 又は #90

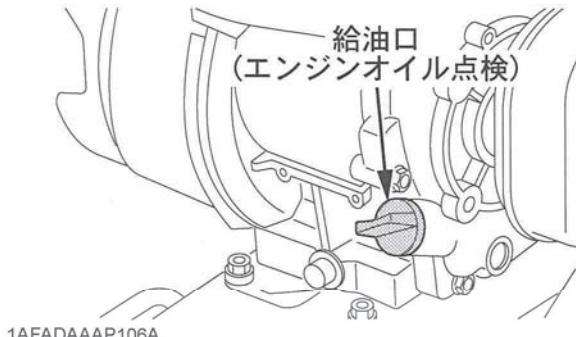
◆ エンジンオイル

- エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
- 不足している場合、エンジンオイル 10W-30 を補充します。(ガソリンエンジン用)

※オイルゲージはねじ込まらずに使用します。

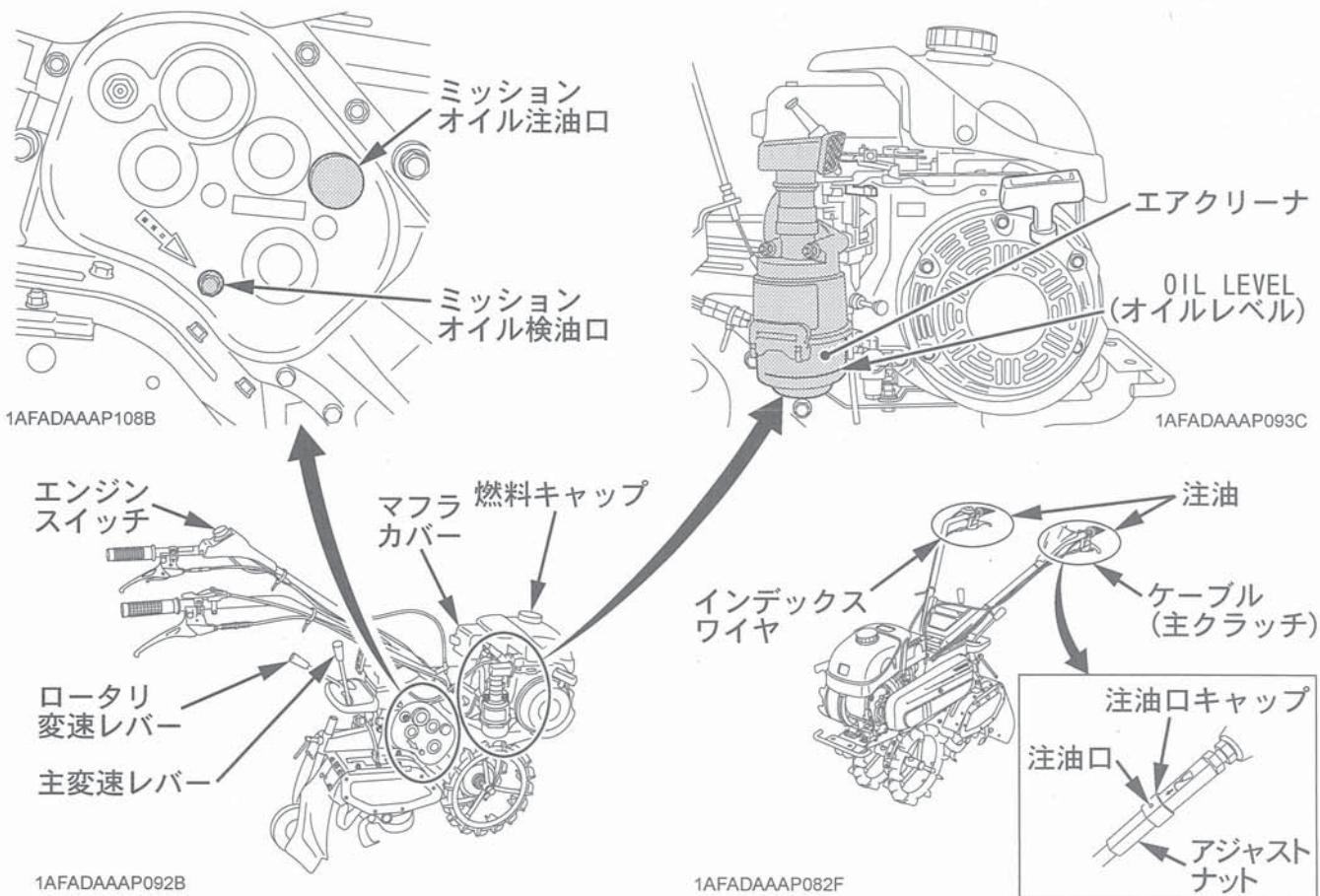
※出荷時にオイルは抜取っておりますが、構造上抜ききれないオイルが内部に残存しています。

0.4L 給油しようとするとあふれる場合がありますので、オイルゲージの規定範囲を目安に給油してください。



作業前の点検

- ◆ ミッションオイル
 - ケース右側の注油口よりギャオイルを規定量給油してください。
 - 機体を水平にして検油口よりオイルが流れ出れば規定量です。
 - 不足している場合にはミッションオイルを補充します。
- ◆ エアクリーナ
 - エアクリーナにオイルを入れます。(エンジンオイル SC 級以上)
 - エンジンオイルを OIL ↑ LEVEL まで入れてください。
 - エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。
- ◆ 燃料
 - ロータリ爪接地状態で燃料を入れてください。
 - 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
 - タンク容量・・・約 1.2L (赤色ゲージ以下にします。)
- ◆ ケーブル (主クラッチ)
インデックスワイヤー
 - 注油口よりエンジンオイルを注油します。
- ◆ その他
 - エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
 - 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
 - 各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。



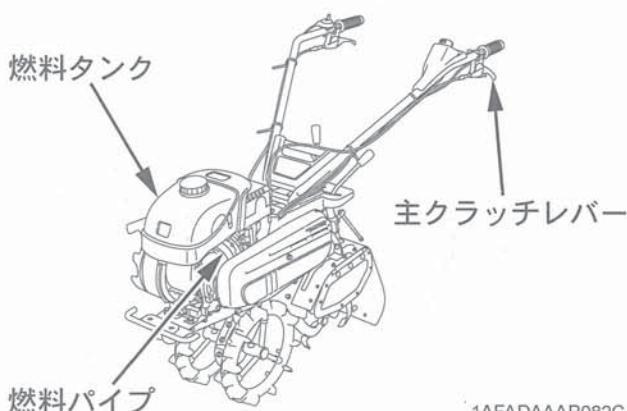
1AFADAAAP132A

重 要

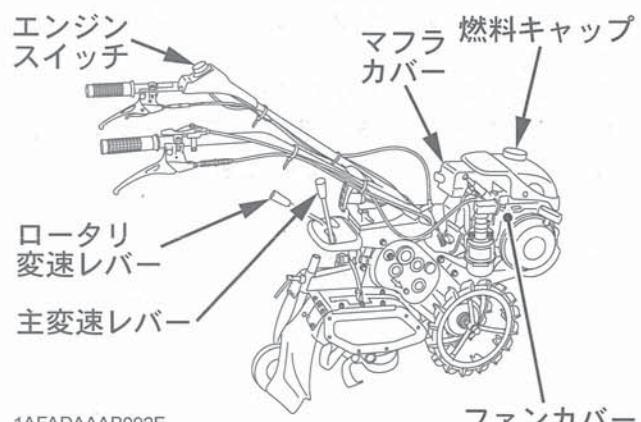
* 水やごみを混入しないようにしてください。

安全に作業するためには

- ◆ **主クラッチレバー**
 - クラッチの【入】・【切】が確実に行なえるか点検します。
 - 不良の場合は調整・注油します。
- ◆ **主変速レバー**
 - 変速が案内板の表示位置で確実に行なえるか点検します。
 - 【F仕様】の場合、ロークリ変速レバーが正転又は逆転の場合、後進に入らないことを確認します。
- ◆ **ロークリ変速レバー**
 - 変速が案内板の位置で、確実に行えるか点検します。
 - 【F仕様】の場合、主変速レバーが後進の場合、ロークリレバーが正転、逆転に入らないことを確認します。
- ◆ **電気配線**
 - 被覆が溶けたり破れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。
- ◆ **エンジン周辺部**
 - ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。
- ◆ **ガソリンもれ**
 - タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。
もれがある場合は、修理点検します。
- ◆ **エンジンスイッチ**
 - エンジンの始動、停止を確実に行えるか確認します。エンジンが停止しない場合無理に停止しようとせず、ご購入になった販売店までご連絡ください。



1AFADAAAP082C



1AFADAAAP092E

運転のしかた

新車時の扱いかた

■ならし運転（最初の 10 時間まで）

この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

エンジンの始動と停止のしかた

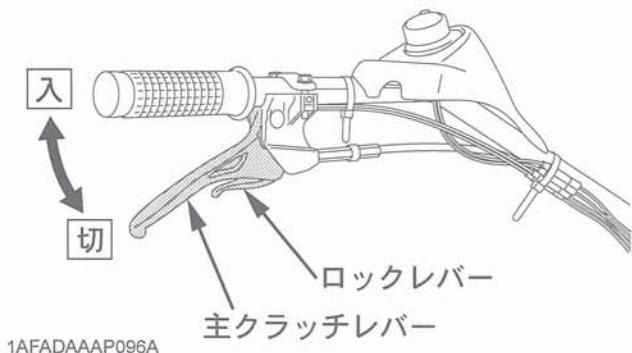
■始動のしかた



注 意

- * マフラの排気出口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
- * リコイルスターを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- * エンジンの運転中は、危険ですからマフラやそのほか操作レバー以外の物には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- * 夜間作業はしないでください。
- * エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず【切】にしてください。

1. 主クラッチレバーを【切】にします。
(ロックレバーを握り、クラッチを【切】にします)

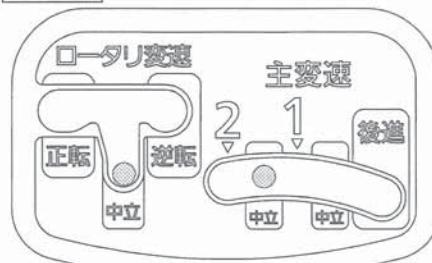


補 足

- * 主クラッチレバーが【入】では始動ケンセイ装置が作動してエンジンは始動しません。

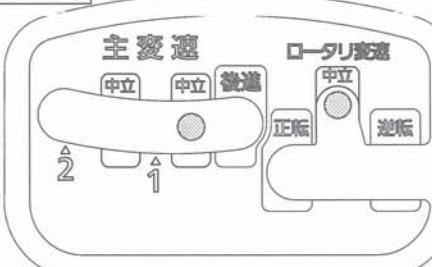
2. 主変速レバー・ロータリ変速レバーを【中立】にします。

F仕様



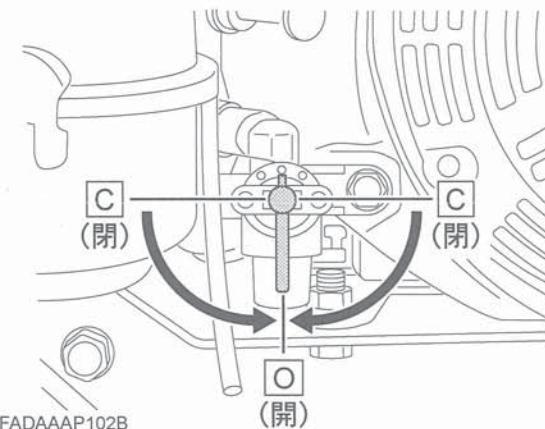
1AFADAAAP099B

R仕様

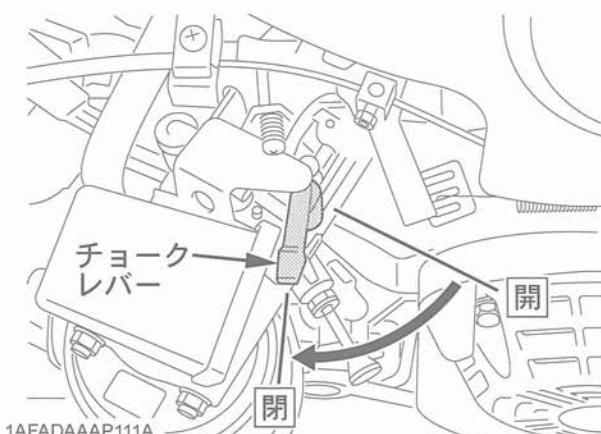


1AFADAAAP101B

3. 燃料コックを【O】(開)にします。

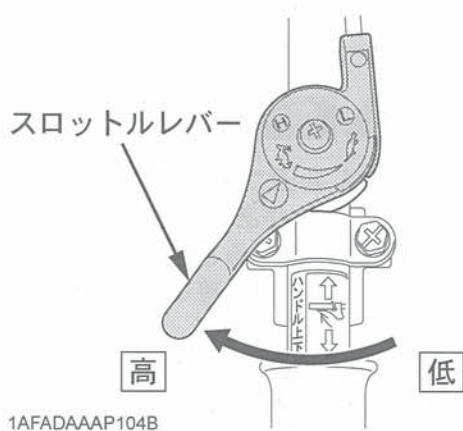


4. チョークレバーを【閉】位置に切り替えます。
(但し、外気温 15 ℃以下の場合)

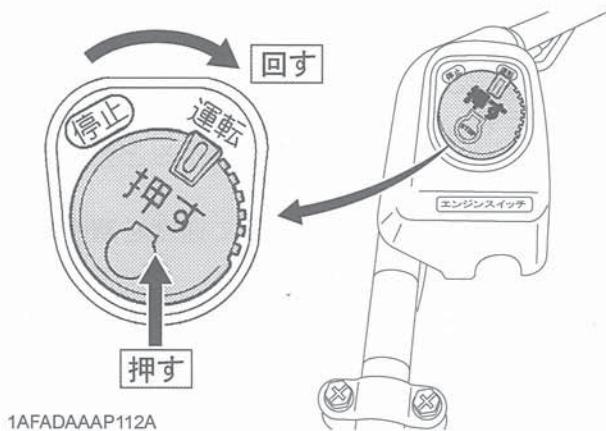


運転のしかた

5. スロットルレバーを【高】にします。

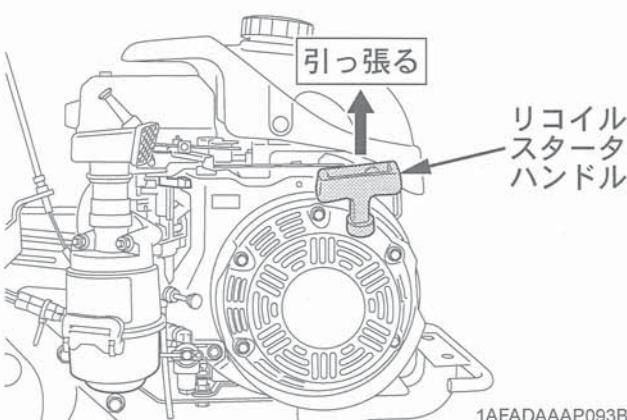


6. エンジンスイッチを押しながら【運転】位置まで回します。



7. リコイルスターターハンドルを握って、引っ張ります。

エンジンが始動したら、リコイルスターターハンドルを静かに元に戻します。



8. チョークレバーを【閉】の位置でエンジン始動した場合は、エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に【開】の位置に戻します。

9. 2~3分暖気運転をしてから、作業を始めてください。

重 要

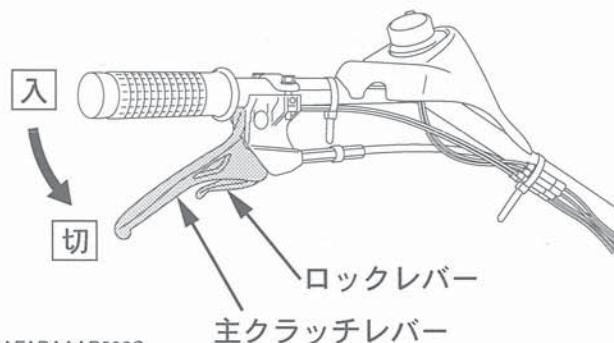
* 運転中はリコイルスターを引かないでください。

■停止のしかた

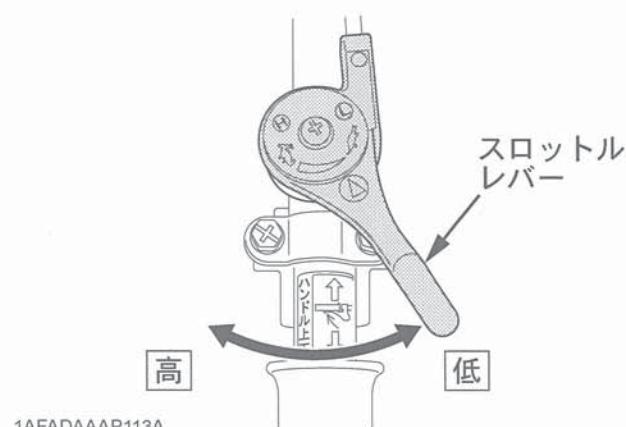


* 停止直後はしばらくマフラーが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

1. 主クラッチレバーを【切】にします。
(ロックレバーを握り、クラッチを【切】にします)



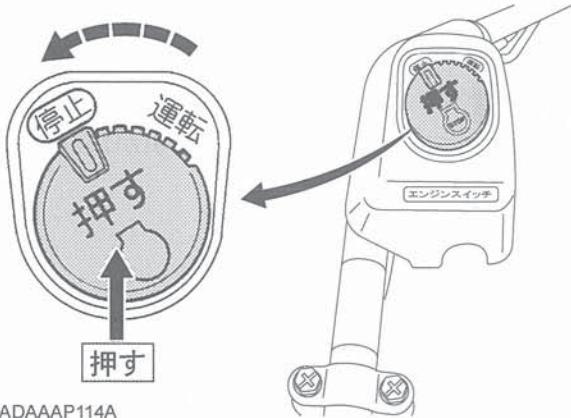
2. スロットルレバーを【低】にします。



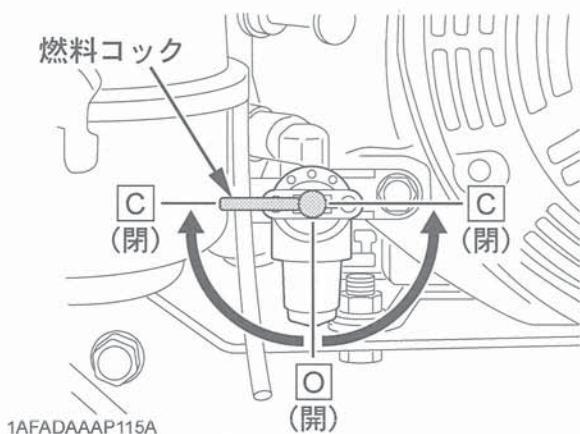
1AFADAAAP113A

運転のしかた

- 主変速レバー、ロータリ変速レバーを【中立】にします。([始動のしかた]を参照)
- エンジンスイッチを押すと左に回って【停止】位置に戻り、エンジンが停止します。



- 燃料コックを【C】(閉)にします。



重 要

- コックを開いたままの状態で保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。
また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

発進のしかた



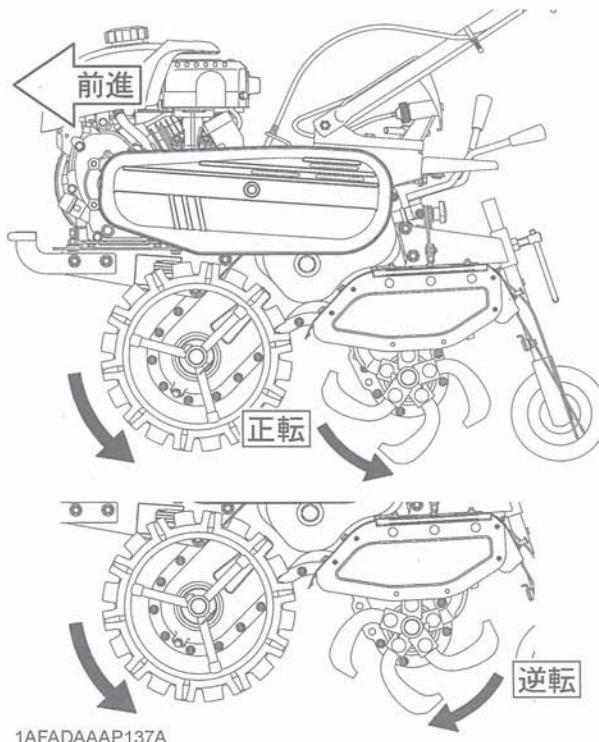
警 告

- * 運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。
- * 傾斜地での運転や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり、体や首をはざまれるなどのおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- * 狹い場所での運転や後進の運転については、エンジンの回転を低速にし、後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

- 主クラッチレバーが【切】の位置にあることを確認した後、変速レバーを必要な変速位置にします。
- 主クラッチレバーを【入】にすると発進します。
- スロットルレバーを操作して速度を調節します。

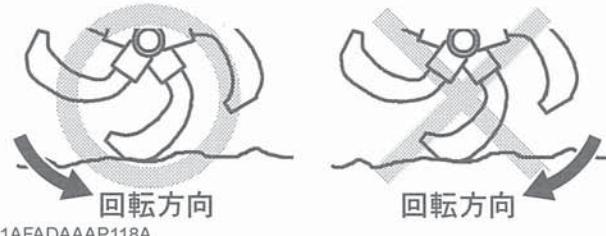
補 足

- * ロータリ回転方向は下図に示すように前進時の車輪と同じ回転方向を正転、逆方向を逆転と表記します。(本図は[F仕様]を示します。)



重 要

- * 正転、逆転では爪の向きが異なります。誤った取付け方で作業を行うと機体を破損する恐れがあります。



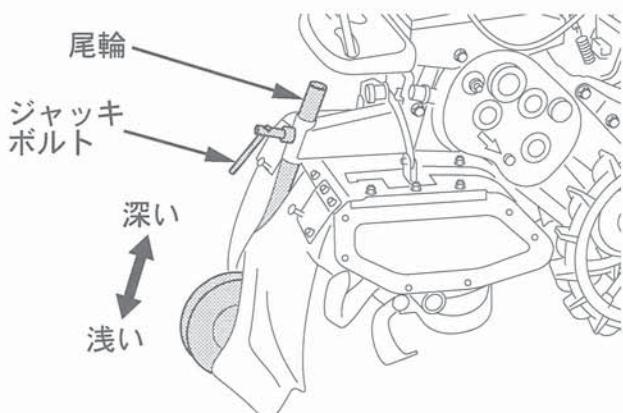
■耕深の調節



警 告

- * 調節時は必ずエンジンを停止してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- * 耕深を深くしすぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し傷害事故につながる恐れがあります。浅めの耕深から徐々に調節してください。

1. ジャッキボルトをゆるめ、尾輪の位置を調節できるようにします。
2. 耕深を浅くする場合は尾輪を下げ、深くしたい場合は尾輪をあげます。



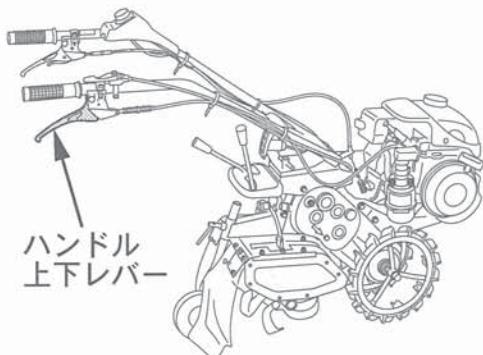
■ハンドル高さの調節



注 意

- * 平坦な場所に安定させて、主変速レバー、ロータリ変速レバーを中立にし、主クラッチレバーを[切]にして行ってください。傷害事故のおそれがあります。

1. ハンドル上下レバーを握るとハンドルが4段階に調節できます。
2. ハンドル上下レバーを離すと固定されます。このときピンがプレート穴に確実に入っているか確認してください。



1AFADAAAAP092D

運転のしかた

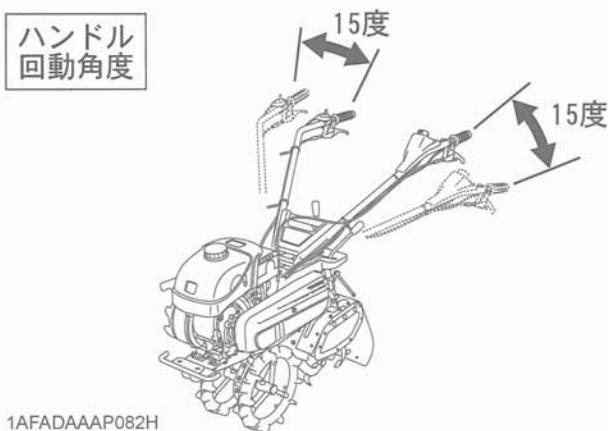
■ハンドルの左右回動



注 意

* 平坦な場所に安定させて、主変速レバー、ロータリ変速レバーを中立にし、主クラッチレバーを【切】にして行ってください。ハンドルを固定させた後はしっかりとジャッキボルトを締め付けてください。傷害事故のおそれがあります。

1. ジャッキボルトをゆるめると、左右にそれぞれ（15度）ハンドルを回動できます。
2. 回動させたらジャッキボルトを確実に締め付けハンドルを固定してください。



作業のしかた

上手な作業のしかた

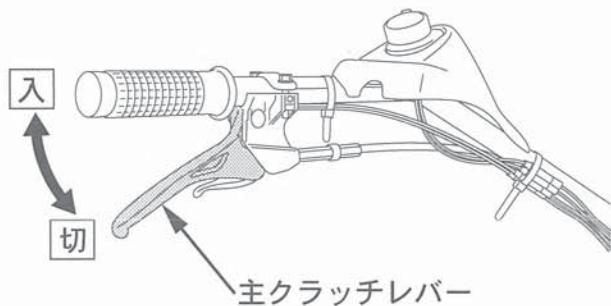
下記操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

■耕うん作業手順

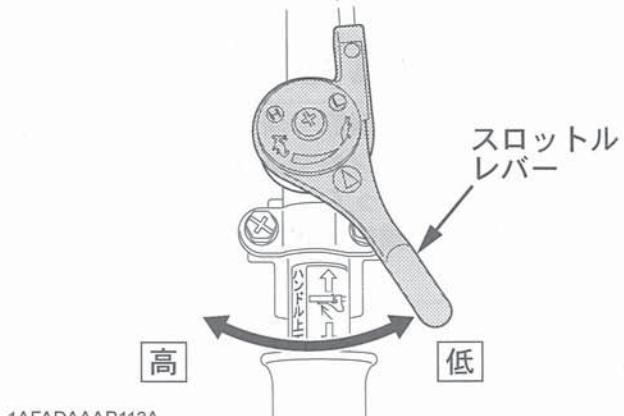
1. 主クラッチレバーが【切】になっていることを確認します。
2. 主変速レバーを作業に合わせて目的の位置に確実に入れます。
3. ロータリ変速レバーも作業にあわせ正転または逆転の位置に確実に入れます。
4. スロットルレバーを操作してエンジンの回転数を上げます。
5. 主クラッチレバーを徐々に握るとクラッチが入り発進します。
6. スロットルレバーを操作し、速度やロータリ回転数を調節します。
7. 変速するときは必ず主クラッチレバーを【切】にしてから行ってください。

■旋回手順

1. 主クラッチレバーを【切】してください。
2. スロットルレバーを【低速】にしてください。
3. ロータリ変速レバーを【中立】位置に入れて、ロータリの回転を止めてください。
4. 【F 仕様】はハンドルを持ち上げ、【R 仕様】はハンドルを押し下げ、主クラッチレバーをゆっくり握り旋回します。
5. 上記【耕うん作業手順】の手順で作業を行ってください。



1AFADAAAAP096D



1AFADAAAAP113A

管理機の簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について



警 告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- * 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- * 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- * 廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

日常の手入れ



注 意

- * 給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- * 平坦な場所に機械を安定させて行ってください。

■エンジンオイルの交換

◆ 給油のしかた

エンジンを水平にしオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。

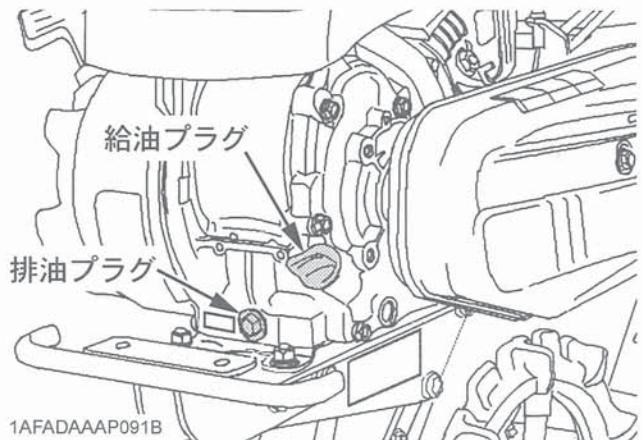


◆ 排油のしかた

機体を水平に安定させプラグを外し、排油してください。この時、必ずオイルパン等で受けください。

重 要

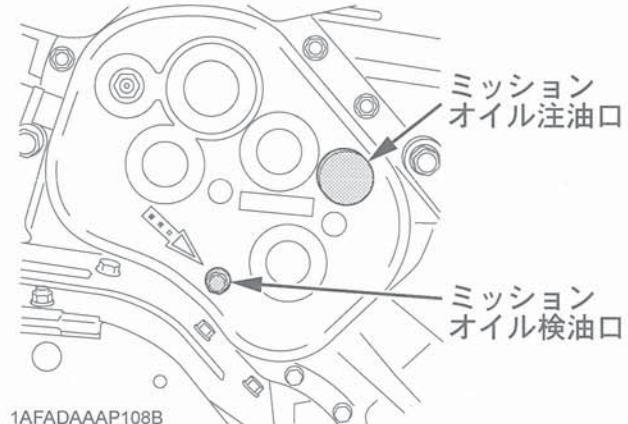
- * 粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、購入先でエンジンオイル 10W-30 とご指定の上、お求めください。(次頁のオイルの点検と交換表を参照)
- * 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



■ミッションオイルの交換

◆ 給油のしかた

機体を水平にし検油口まで給油してください。



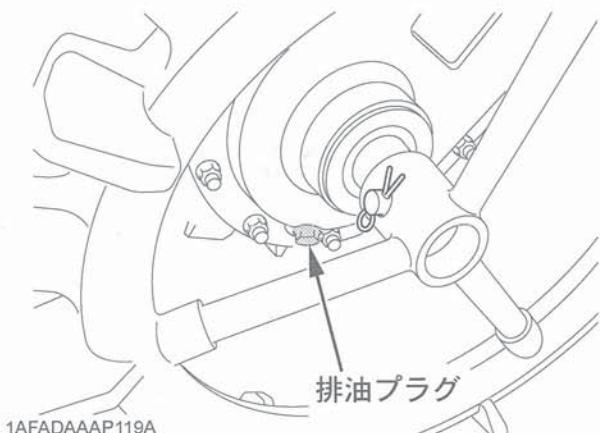
◆ 排油のしかた

ミッションケース車軸側にある排油プラグを外し排油します。この時、必ずオイルパン等で受けください。

補 足

- * 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。

管理機の簡単な手入れと処置



重 要

- * 粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先でミッションオイル #80 又は #90 を求めください。(下のオイルの点検と交換表を参照)
- * 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。
- * オイルを交換する場合は、排油プラグを外して排出しますが、ケース内のゴミも同時に排出させるために、できるだけ運転使用後、オイルが暖まっている状態の時排出してください。

オイルの点検と交換表

項目 (オイル量)	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以後	
エンジンオイル (0.4L)	エンジン水平	20 時間使用後	50 時間使用後	10W-30
ミッションオイル (1.3L)	機体水平	20 時間使用後	年一回	#80 又は #90

■エアクリーナエレメントの清掃とオイルの交換

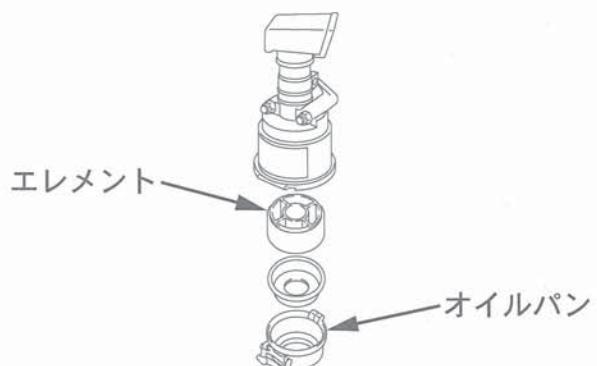
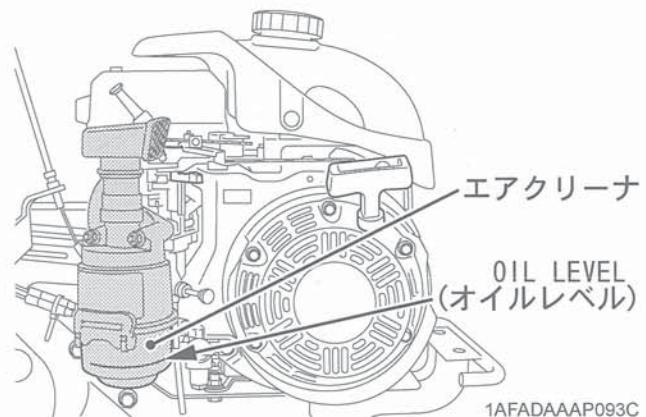
1. エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振切ってから取付けてください。
2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
 - 規定量・・・OIL LEVEL と記載されているところ

重 要

- * エアクリーナを取り外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。
- * 汚れたまま使用しますと、エンジン出力低下や故障の原因になります。

エレメント (オイル)	清掃	通常	通常
		ホコリの多い場合	毎日
	交換	汚れがひどいとき	

- * チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は、
 - (1) ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸入口を向けてください。
 - (2) 毎日点検してください。
- * 規定量よりエンジンオイルを入過ぎると、エンジン不調の原因となります。



管理機の簡単な手入れと処置

■燃料フィルタの清掃

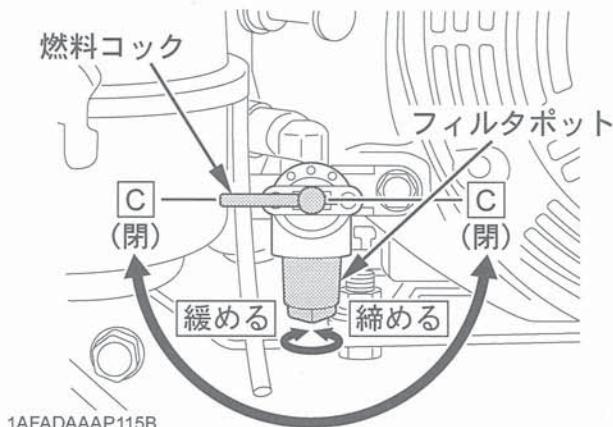


注 意

* 取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取除きます。取除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを【C】(閉)にし、フィルタポットを取り外し、ポットの底にたまっているゴミや水を捨てます。

100 時間使用ごと	フィルタの清掃
300 時間使用ごと	タンクの清掃



■点火プラグの調節・清掃・交換



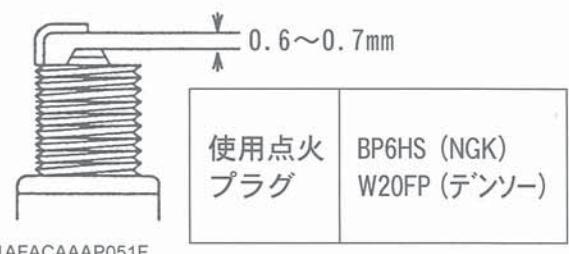
注 意

* 高温部が冷えてから行なってください。

1. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出させます。



2. 付属のプラグボックスでプラグを外して、電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
3. 電極のすきまが 0.6 ~ 0.7 mm になるように調節してください。
4. 点検調整は 6 ヶ月に 1 回行ってください。



5. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

重 要

- * プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめは手で締め込んでから、プラグボックスで締付けてください。
- * 調節・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。
- * プラグを外したまま始動操作をしないでください。

管理機の簡単な手入れと処置

■主クラッチケーブルの調節



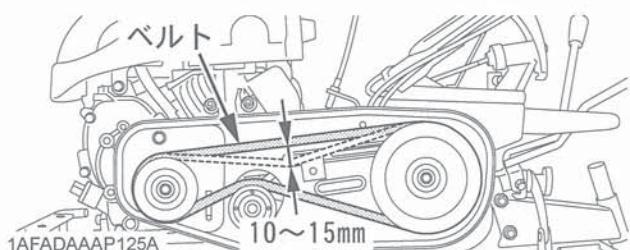
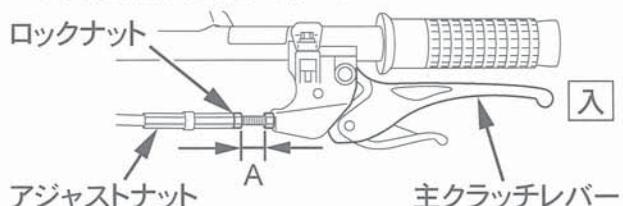
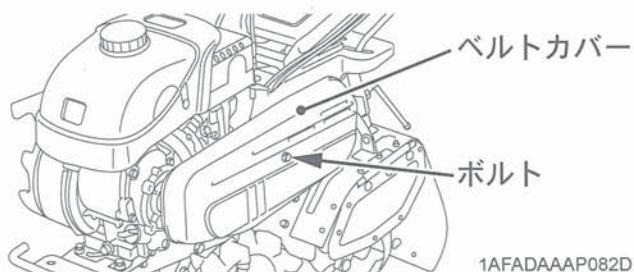
警 告

- * ベルト調節を行なう場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。
- * 調節が終わったら必ずベルトカバーを取り付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- * エンジンを始動する前に、変速レバーを中立にしてください。
- * 調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

◆ 主クラッチケーブルによる調節

1. ベルトカバーのボルトを外し、ベルトカバーを取り外します。
2. 主クラッチレバーを入れた状態で、ベルトの中央部を指押さえ 10 ~ 15 mm たわむ程度に、アジャストナットでテンションプーリーを調節します。調整後はロックナットでアジャストナットを固定します。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、10 時間使用後ケーブルを再調整してください。

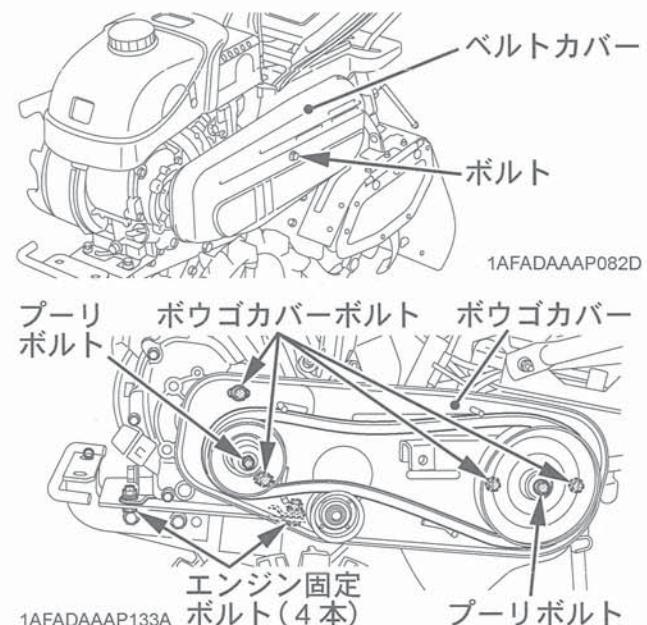
ベルトがスリップするとき	アジャストナットの A 部を長くする
主クラッチレバーが重すぎるととき	アジャストナットの A 部を短くする



◆ エンジン前後によるベルトの調節

ベルトが伸びたり、又は新しいベルトに取替えたとき、主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は、エンジンを前後に移動して調節します。

1. ベルトカバーの取付ボルトを外し、ベルトカバーを取り外します。
2. プーリーを止めているボルトを外し、プーリーを取り外します。
3. ボウゴカバーの 4 本のボルトをゆるめます。調節後は確実にボルトを締付けてください。
4. エンジンを固定しているボルトをゆるめて調節します。調節後は確実にボルトを締付けてください。

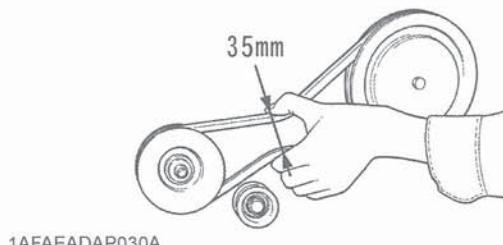


重 要

- * 使用初期はベルトが伸びやすいため、10 時間使用後ケーブルを再調節してください。
- * 主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの【入】・【切】が確実に作動するか確認してください。

◆ 新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指ではさんでさき間が約 35mm にたわむくらいにして、エンジンを固定しているボルトを締付けてください。

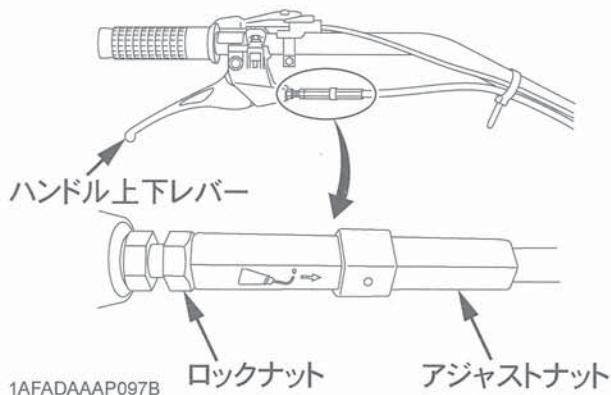


管理機の簡単な手入れと処置

■ハンドル上下レバーの調整

ハンドル上下レバーを握ってもハンドルが上下しない又は調子が悪いときは、インデックスワイヤーのアジャストナットでケーブルの長さを調節します。

ハンドルを上下にセットしたときにプレートの穴にピンが確実に入っていることを確認し、アジャストナットをロックナットで固定します。

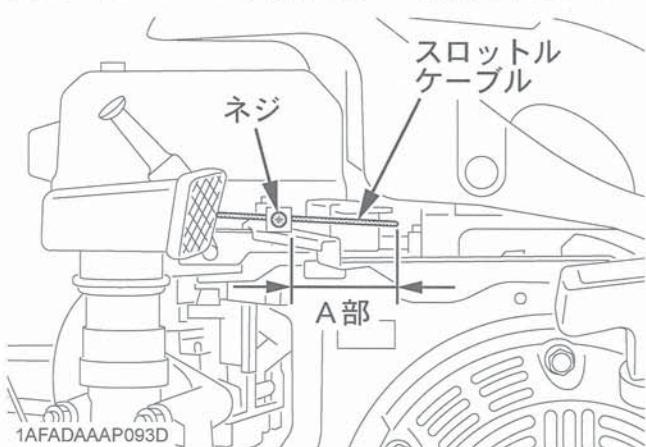


■スロットルレバーの調整

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときは、スロットルケーブルを止めているネジをゆるめて調節します。

ケーブルのA部が長くなるように調整するとエンジン回転が高くなります。

調整にあたっては、購入先にご相談ください。



管理機の簡単な手入れと処置

■耕うん爪の取付けかた

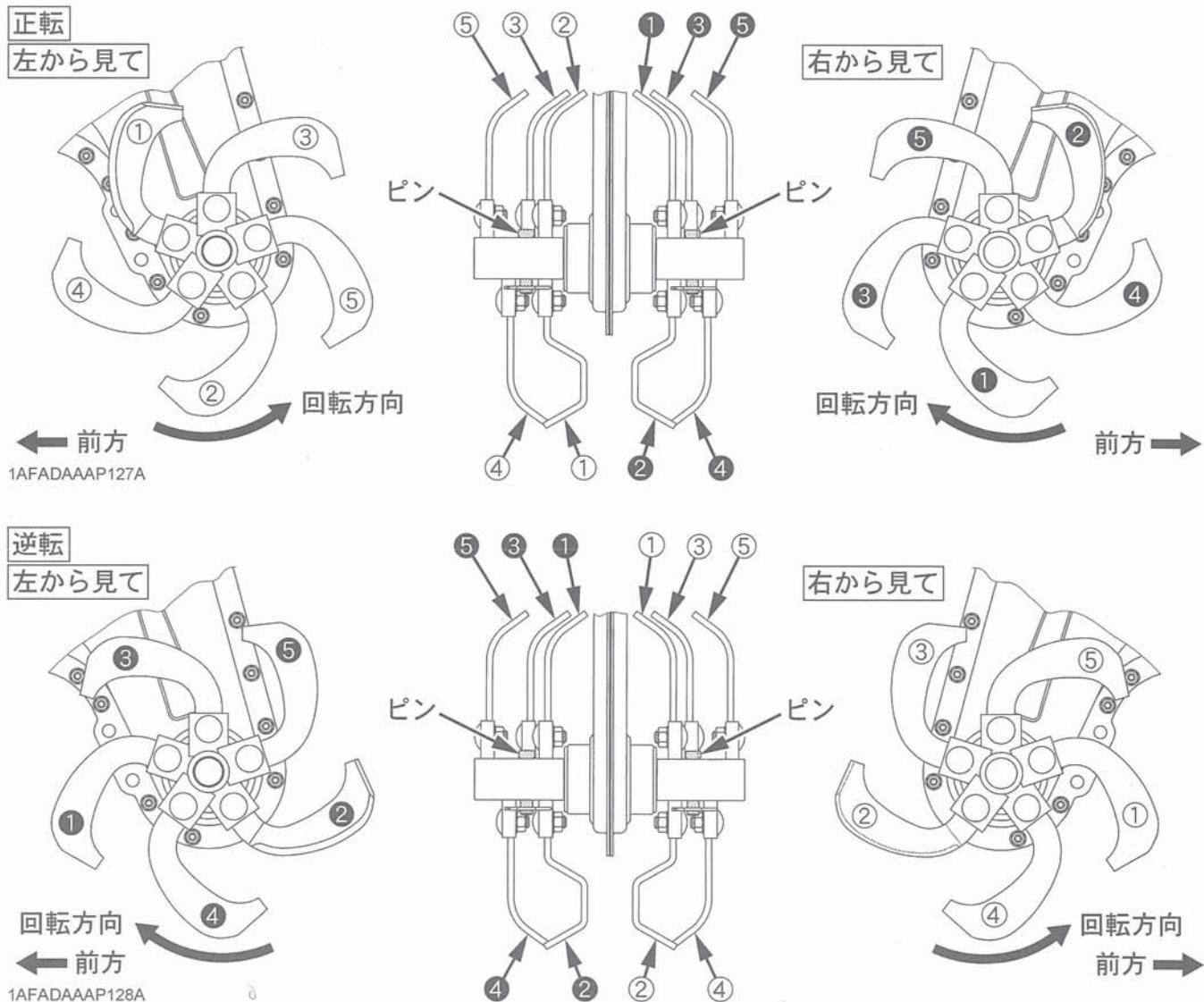


警 告

- * 爪の交換時は、エンジンを停止してください。
- * 爪交換時はロータリに付いた土を落とし、ロータリ部が落下しないようにしてください。
- * 上記の手順をおこたると、傷害事故の危険があります。

◆ 耕うん爪の取付け方は以下の通りです。

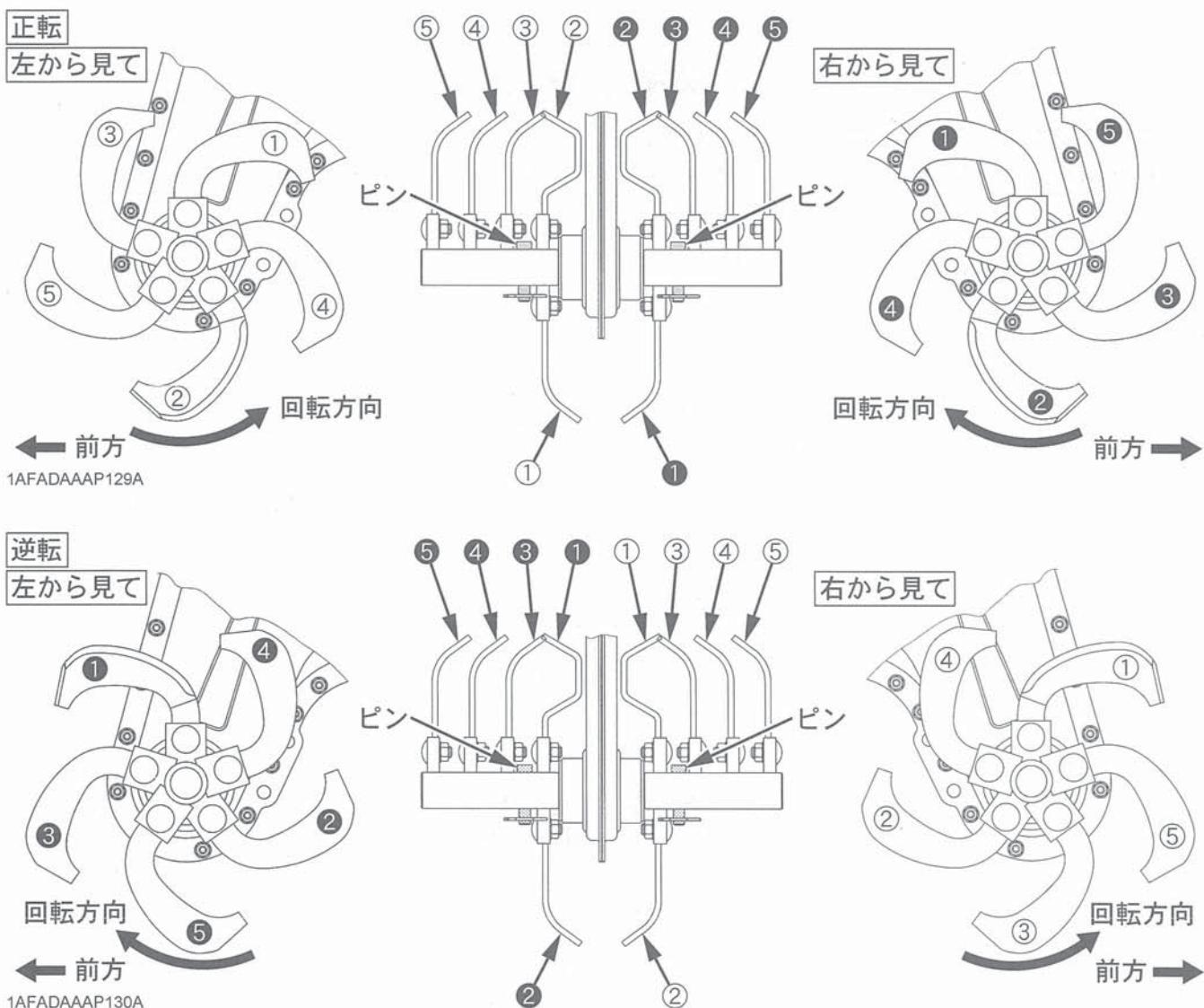
[K350 F]



[K350 F]

管理機の簡単な手入れと処置

[K350 R]



[K350 R]

◆ 締付トルク

48.0 ~ 55.9 N・m

重 要

- * 爪の内外の向き、ならびに種類を間違えないようにしてください。
- * 作業前には爪の取付けボルト・ナットにゆるみがないか確認し、増締めをしてください。
- * 爪を交換後は、ボルトを確実にしめてください。

管理機の簡単な手入れと処置

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各シゅう動部はさびないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますのでよく点検・清掃を行ってください。

重 要

- * 水洗いのとき、エアクリーナ吸込口から水が入らないように気をつけてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

重 要

- * コックを開いたままで保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難になる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

■長期格納時の手入れ



注 意

- * カバーをかけたり、納屋に保管するときは、火災の恐れがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。
- * 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

1. 主クラッチレバーは【切】の状態にして保管します。
2. 燃料タンク・キャブレター・フィルタポッドの中のガソリンは全て抜取ります。
(1ヶ月以上使用しないとき)
3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
4. エアクリーナエレメントを掃除しておきます。
5. エンジンのシリングダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタートハンドルを引っ張って、圧縮位置で止めておきます。
6. カバーをかけ、湿気や草・ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重 要

- * ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いのでさびやすくなります。

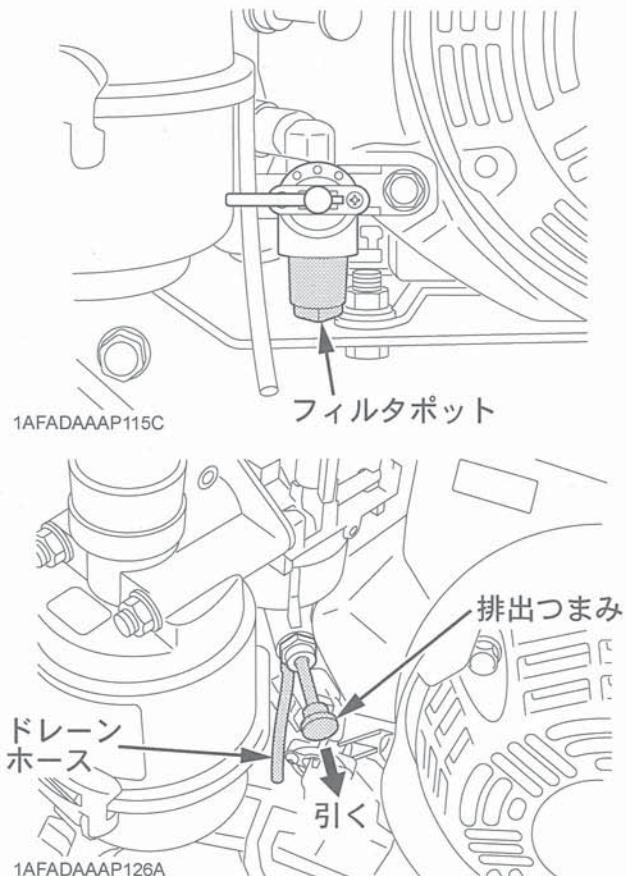
■燃料の抜取り



注 意

- * 燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行ってください。
- * 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
- * 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

1ヶ月以上使用しないときは、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜取り、キャブレター内は排出つまみを引いて、フィルタポットは外して全部抜取ります。



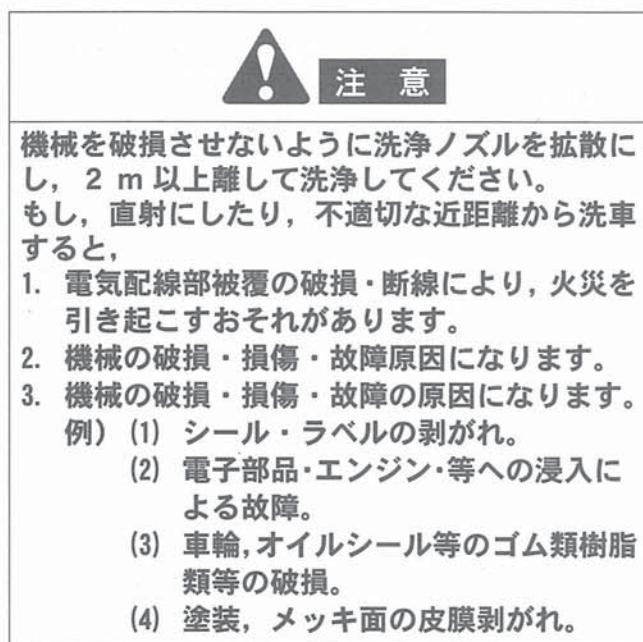
重 要

- * 燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

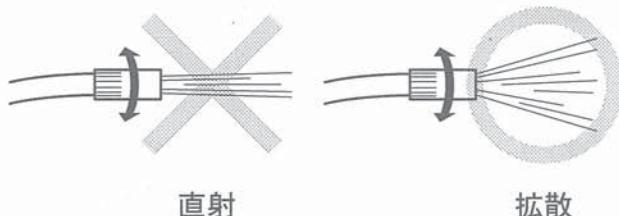
管理機の簡単な手入れと処置

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人に怪我をさせたり、機械を破損・損傷・故障させることができますので、高圧洗浄機の取扱い説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

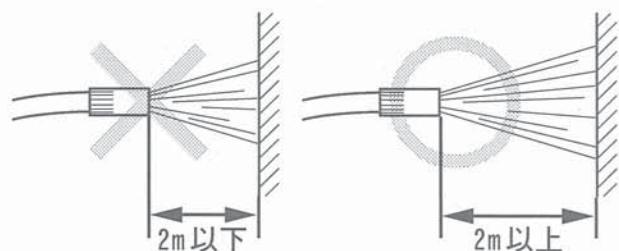


直射洗車厳禁



1AGACBRAPO67A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAPO68A

管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み、運搬

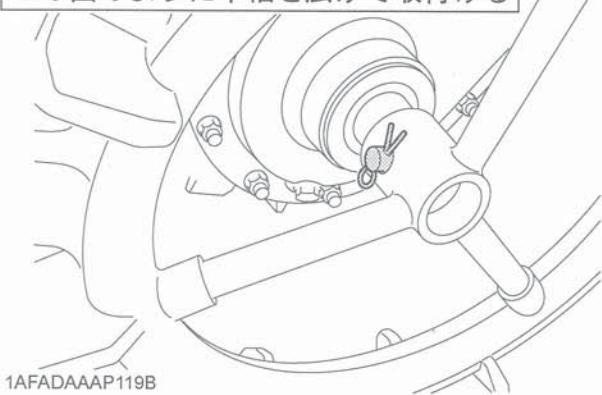


注 意

- * 積込み、積降ろしは、平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
- * アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えられるもので、トラックの荷台の高さ【1】に対しアユミ板の長さ【4以上】のものを使用し、確実に固定してください。
- * 足元に注意し、車速は最低速で上りは【前進】、下りは【後進】で行なってください。
- * 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
- * トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむおそれがあります。
- * トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

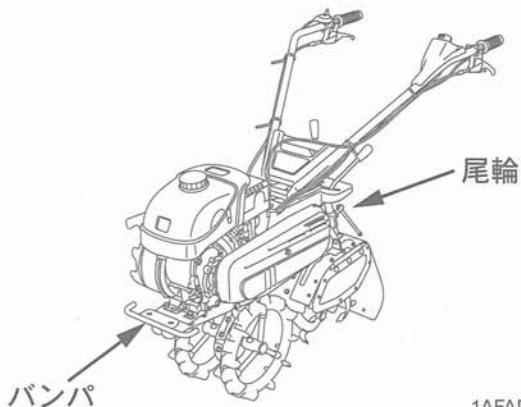
1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは前進【1速】で、下りは、【後進】にします。
4. 運搬時は車輪幅を広くし、尾輪を上げて爪と車輪がしっかり床面に着くようにします。
5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。

この図のように車幅を広げて取付ける



1AFADAAAP119B

6. 機体にロープを掛けるときは、バンパ・尾輪の2箇所を固定してください。

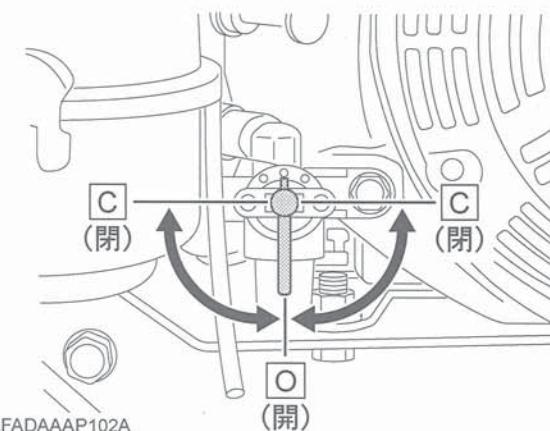


1AFADAAAP082E

7. 燃料コックレバーは【閉】にします。
8. 雨天時には、エアクリーナの吸気口にカバーをかぶせてください。

重 要

- * ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂バー、小物部品にロープが触れないよう気をつけてください。
破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- * エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
- * 燃料コックレバーを【開】いたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。



1AFADAAAP102A

付表

主要諸元

販 売 型 式 名		K350 F	K350 R
機 体 寸 法	全長 (mm)	1290	1130
	全幅 (mm)	560	560
	全高 (mm)	920	930
機体質量 (重量) (kg)		54	54.5
エンジン	型式名	GB101LN-356	
	種類	空冷 4 サイクル 傾斜形横軸 OHV ガソリンエンジン	
	総排気量 (L {cc})	0.098{98}	
	連続定格出力 (kW{PS} / rpm)	1.6{2.2}/1800	
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量 (L)	1.2	
	始動方式	リコイルスター式	
走行部	車輪 (タイヤ)	ゴムラグ車輪 (直径 300 mm)	
	輪距 (外幅) (mm)	149 (最大 233)	
	主クラッチ方式	ベルトテンション	
	変速段数 (段)	前進 2 段 後進 1 段	
	走行速度 前進 (km/h)	1.7, 3.3	1.3, 3.8
	走行速度 後進 (km/h)	1.4	1.1
ローダー	車軸の形状・寸法 (mm)	丸軸・直径 25	
	変速段数 (段)	正転 1 段 逆転 1 段	
	爪軸回転速度 (rpm)	正転 307・逆転 358	正転 358・逆転 421
	耕幅 (mm)	200	300
	爪回転径 (mm)	280	
	爪軸の形状・寸法 (mm)	丸軸・直径 25	

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

走行速度一覧表

販 売 型 式 名		K350 F	K350 R
変 速		前進 2 段 後進 1 段	前進 2 段 後進 1 段
前進 1 (Km/h)		1.7	1.3
前進 2 (Km/h)		3.3	3.8
後進 (Km/h)		1.4	1.1
条件	定格回転数 (rpm)	1800	
	ブーリ外径 (mm)	Φ 72.1 Φ 130	
	車輪	ゴムラグ車輪 (直径 300 mm)	

標準付属部品

品名	数量 / 台	備考
プラグボックス	1	
プラスドライバー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	

主な消耗部品一覧

● 本機関係

品名	品番	数量	備考
Vベルト SB-37	0751310037	1	
ケーブル（シュクラッチ）	220121070306006	1	
ワイヤーハーネス（A）	220120703021005	1	ストップスイッチ用
ワイヤーハーネス（B）	220121070323005	1	主変速レバー用
コモンワイヤー	220121070322005	1	アース用
ピン	282130000419000	4	車輪、爪軸取付用
スナップピン	0551571000	2	車輪、爪軸取付用
オイルシール	0955254713	4	車軸、耕耘軸
ツメ（チュウコウヅメ、ヒダリ）	0557145313133003	4	
ツメ（チュウコウヅメ、ミギ）	055714531312003	4	
ツメ（3ゴウヘンケイヅメ、ヒダリ）	002901600210000	1	
ツメ（3ゴウヘンケイヅメ、ミギ）	002901600209000	1	
バネザガネ	0451270100	10	爪取付用、M10
ナット	0211870100	10	爪取付用、M10
ボルト	282130000417000	10	爪取付用、M10

トラブルと処置

■ エンジンが始動しないとき

原 因	処 置
● 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。(10 ページの「運転のしかた」を参照)
● タンクにガソリンを入れたまま 1 カ月以上保管しガソリンが劣化した。	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。また新しいものと交換する。キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸いすぎた。	チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
● エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレターがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
● エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。または新しいものと交換する。
● 点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しいものと交換する。

■ エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原 因	処 置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じた)まま運転している。	チョークを戻す(開く)。
● フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して清掃する。キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
● スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

■ エンジンが振れる、異音が発生する

原 因	処 置
● エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	取付けボルトを締付ける。

■ ハンドルのガタが多い

原 因	処 置
● ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドル締付ボルトを締め直す。

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。

市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。



陸内協規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会
の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主
規制に適合していることを示しています。

品番 220121050811001

